

生き方・いろいろ・ゆたかな人生

# まなこ



92  
2014 Dec.



特集

## 多様な性を考える

- ◎寄稿文 田中かず子さん  
(元国際基督教大学ジェンダー研究センター センター長)……P2
- ◎セクシュアル・マイノリティを生きるということ……P4
- ◎学校教育における「性に関する指導」の今を知る……P6
- ◎性別や同性愛などで悩んでいる方 まずはお電話ください……P7





## セクシュアル・マイノリティを生きるよつこいよ

互いの違いを受け入れ、尊重し合う社会をつくるために、何ができるでしょうか？  
セクシュアル・マイノリティの方々にお話を伺いました。

―性の違和感を覚えたのはいつですか  
ハマカワさん 小学生の頃は男子生徒の中にいましたが、「僕」や「俺」という一人称が使えず、言おうとしても声が出ない感じでした。

中学校、高校では男子の制服を着ていましたが、大人から、見た目で判断されるのがとても嫌でした。自分の性に対する防衛反応が働いていたのだと思います。

中学生の時にテレビドラマの「<sup>※1</sup>3年B組金八先生」が放送されました。上戸彩さんの役に強い興味を持ち、そこで初めて、性同一性障害という言葉を知りました。

その後、就職活動を始めましたが、スーツを着るだけで男性であることを強要されているようで、ものすごい違和感を覚えました。それまで抑え続けてきた思いが限界に達したのだと思います。その時に、「男性の身体が嫌なら、自分は女性なのか？」と思いましたが、何度自分に問いかけても「女性でもな

い」という答えが返ってきました。  
Kさん 自分は女性であることを強く自認して生きています。私が人と違う点は性的指向です。レスビアンは小さいころから女性が好きという人も多いのですが、私は学生時代に、男性とも女性ともつきあっていましたし、一度結婚も経験しました。レスビアンと自認したのはつい最近です。自然に、自分と似たような感覚を持っている人たちのコミュニティに近寄っていったので、気がついたら、「女性が好き」という話をして大丈夫な環境にいました。

薬師さん 僕は幼少期にアメリカに住んでいました。その頃は女の子として生活していて、7歳のときの初恋の相手が女の子でした。でも、それを「おかしい」と言われたことはありませんでした。9歳で日本に帰国し、「女の子だからあぐらをかいちゃいけない」「女の子と遊びなさい」などと周りから言われ、そこで初めて、性の違和感を覚えました。

―ご自身の性について最初に誰に伝えましたか  
薬師さん 性について悩んだ末に、高2の時に自殺を図りました。その時に「もう限界だな」と思い、周りにカミングアウト(告白)を始めました。最初に伝えたのはクラスの友人で、泣きながら「うち、性同一性障害なんだよね」と伝えました。その子は「薬師は薬師なんだからいいじゃん」と言ってくれました。自分が10年間悩んできたことに対して、そう応えてもらえたことが嬉しかったです。「でも、この日本社

### <座談会メンバー>

**ハマカワアツキさん**  
身体は男性、性自認なし、好きになる性は3つ以上、26歳。NPO法人「レインボー・アクション」ではXラウンジのチーフを担当。運送会社を経て、現在転職活動中。

**Kさん**  
身体は女性、心も女性、好きになるのは同性の女性。29歳。大学院生。NPOにてセクシュアル・マイノリティの運動と支援にかかわる。結婚経験あり。

**薬師実芳さん**  
身体は女性、心は男性、好きになる性は、男女の分類に適合しない人も含めて全てのセクシュアリティの人。LGBTを含めた全ての子どもが育ちのままで大人になれる社会を目指すNPO法人「ReBit」代表理事。(http://rebitlgbt.org)



左から、コーディネーターの三上かおりさん(共同企画むさしの代表)、ハマカワさん(「レインボー・アクション」会員)、詩水ファシリテーター、薬師さん(NPO法人「ReBit」代表理事)

会では受け入れられないだろう」という気持ちはずっとありました。

高校卒業時に母親に「これからは男性として生きていきます」と伝えました。母親は泣き崩れてしまい、「産んでごめんね」と言ったんです。僕はそれを「性同一性障害の子なら産まなきゃよかった」という意味にとっしてしまい、その後、家にいづらくなると、友人の家を転々としていたこともあり、後にそれは、「自分に問題があったのではないか」という母の自責の念だったことがわかりました。

元来、ジェンダー(社会的・文化的な性差)やセクシュアリティというのは両親や、育て方に関係ありません。母ともっときちんと話し合えば良かったかと思えます。結局、自分の性を受け入れられるようになったのは、他のLGBTの方たちに会い、「楽しく生きられるんだ」ということを知った20歳の時からです。現在、母は僕の生き方を応援してくれています。

Kさん 大学時代は自分を守るために言っ相手を選んでいました。現在は「大丈夫だな」と思えば先に伝えてしまします。周りもそんなに大きく驚く人はいません。家族は仲が良いです。でも、自身も苦しくなければ言わなくてもいいと思え、伝えていません。

ハマカワさん 僕は親に伝えましたが、理解してもらえませんでした。母親に打ち明けた後も、自分のことを男性扱

いするような言葉をかけられたりしたので、「家族にはわかってもらえない」と思っています。

職場では言う必要がないと思っっています。カミングアウトして自分の性自認に合わせてもらえたいと思っますが、それをするには、まず自分の性を証明するものが必要と考えています。今は自分の性の定義もないので、伝えると誤解される危険の方が大きいです。

―どんな環境があれば、多様な性をもつ人々も生きやすくなると思っますか  
ハマカワさん 自分は環境よりも、まず、相手に男でも女でもないという自分の性を証明できるものが欲しいです。そこから次を考えていきたいです。

Kさん 私は、一人でも、家族がいても、安心して生きていける制度があればいいと思っます。フランスのバックスやイギリスのシビルユニオンなどのパートナーシップの制度では、性別にかかわらずにパートナーを組むことが認められています。南米では男性3人でパートナーとして認められている例もあり

ます。自分が家族になりたいと思っ人と性別も国籍も関係なく使える制度があつたら、いろいろな人が生きやすくなるのではないかと思っます。

薬師さん 「人の理解」がまだ進んでいないと思っます。調査によると教育現場

では、約93%の子もたちが同性愛について学ぶ機会がありませんし、多様な性があることを勉強したことがある教員は<sup>※5</sup>1割未満、といった現状です。その一方で、メディアや外部からの不確かな情報が流されていて、当事者が孤立をしたり、自己否定したり、誰にも相談もできないという現状を生んでいます。多様な性を持つ人たちが自己肯定していきけるようになるためにも、教育の中で多様な性について教えられるべきだと思っます。

ハマカワさん たとえ、多様な性を理解できなくても、周囲の人々にできることはあると思っます。互いに尊重しあい、相手の生き方を否定しない在り方を探っていけたらいいと思っます。

「取材 詩水淳子/取材 文 丸山麻帆」

※1 「3年B組金八先生」第6シリーズ(2001-2002) 上戸彩が性同一性障害の「根本直」役を熱演

※2 パックス(PACS) 連帯市民協約。性別に関係なく、成年に達した2人の個人間で、婚姻より規制が緩く同様に法的権利などを享受できる、新しい家族組織を国家として承認する制度。1999年にフランスで制定されて以降、欧州各国に広まりつつある

※3 シビルユニオン 結婚に似た「法的に承認されたパートナーシップ関係」を指す言葉。同性間カップルに対し、異性間の結婚と同様の法的地位を求める運動の高まりを受けて1999年デンマークで始まり、その後先進国にも普及している

※4 93% 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」より

※5 1割未満 平成26年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業「教員5979人のLGBT意識調査レポート」より

# 学校教育における「性に関する指導」の今を知る

平成26年6月には文部科学省による「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査」が行われるなど、学校教育の現場でも子どもたちの性に関する現状把握とそれに対する具体的な取り組みがようやく動き出しています。市が現在取り組む「性に関する指導」について、市教育委員会指導課長指田和浩さんにお話を伺いました。

―武蔵野市が現在取り組む「性に関する指導」とはどのようなものですか

平成20年3月より現行の学習指導要領および、内閣府の第三次男女共同参画基本計画の内容に沿い、性に関する心身の発達についてなど健康に育つための知識を子どもたちが確実に身につける授業を行っています。また、多様な性を前提とし、子どもが学校の教育活動において苦しむことなく、

◆性同一性障害の子どもに特別な配慮をしている場合の具体的項目

服装(制服有)	31.3%
自認する性別の制服着用を認める、体操着登校を認める等	
更衣室	35.3%
保健室の利用を認める、多目的トイレを更衣室として使用することを認める等	
トイレ	41.4%
職員トイレ、多目的トイレの使用を認める等	
他の児童生徒への説明	17.0%
入学後に本人及び担任から全校生徒に対し説明する、本人の希望により説明していない等	
保護者・PTAへの説明	5.6%
入学時に保護者会で説明する、本人の希望により保護者へは告げていない等	

(図表出典) 平成26年6月文部科学省「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について」

互いの生命、個性を尊重し望ましい人間関係を構築するための指導も行っています。具体的には、小学校では4年生で年4時間程度、中学校では1年生、3年生でそれぞれ年10〜15時間程度を使い、心身の発達、発達と健康、性感染症等の予防など生物学的、医学的見地からの性に関する指導を行っています。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間や、授業以外にも生活指導の場面、市立中学校で言えば職場体験の場などにおいて、互いに相手のよさを認め適切な行動を取れることを目的とした指導を学校生活全体で行っています。

それはあくまで、人権尊重という立場での性に関する考え方を前提に進めており、固定的な性別役割分担意識にとらわれない教育を実践しています。

―性別違和を訴える、もしくはそれが考えられる子どもへの対応について教えてください

大原則はまず本人、そして保護者の気持ちに寄り添うことです。本人、保護者からよく話を聞き、本人の気持ちやどうであるか、どうしたいのかということ踏まえたうえで対処していくことが大切だと考えています。性別違和を感じている子どもが何

に苦しんでいるかは子ども一人ひとりで違います。それを、その子どもが一番信頼を置いている教員(例えば担任、養護教諭など)をはじめ、スクールカウンセラーなどが丁寧に対応していきます。話を聞くなかで、そのケースによって、服装、トイレ、更衣室、各教科の授業や宿泊行事への参加の仕方、出席名簿、呼称など学校が対応できることは、その担任教師を窓口としたうえで校長が先頭に立ち対応の仕方を細かく検討していきます。あわせて、他の子どもに対してその子ども自身の状況を開示したいという場合も、学校ごとに一番よい方法を検討していきます。

教育は「こうだからこう」と画一的に決められるものではありません。子ども一人ひとりはみな違いますので、その子に対して一番よい方法を一人ひとりの様子を見ながら判断していきます。それは何にも性に関する問題だけではなく、全ての子どもたちが悩む一つひとつの事柄に丁寧に対応していくことが教育であると考えています。

―学校における「性に関する指導」について今後の課題は何ですか

学校教育の現場における多様な性についての対応は新しく未知な領域であるため、



指田和浩さん

武蔵野市教育委員会指導課長、府中市立府中第五中学校副校長、国分寺市教育委員会統括指導主事、八王子市立第一中学校長を経て現在に至る。

これから改善すべきことは多々ありますが、人権教育の視点に立つたうえで子どもたちに何より伝えたいのは「世の中にはいろいろな人がいて、いろいろな生き方があり、みな違ってよい」ということです。そうしてその違いを互いに認め合い、お互いが気持ちよく、居場所をもって生活できること、これを目指すことが人権教育の根幹であり、今まさに我々もそれを目指そうとしています。

性に関して言えば、苦しさ、生きづらさを訴えてくる子どもに対処する方策はあっても、子ども自身がそれを発しにくい現状があるかもしれません。現在、市立中学校では、市教育委員会が作成した「武蔵野ガイダンスプログラム」を活用して子どもたちの居場所づくりに取り組んでいます。これはいじめ等の未然防止とともに、集団性を高め相手の気持ちをよりよく理解するために作成した指導資料です。

このような取り組みを通じて自分の悩みを自ら発信できるような環境が整っていると考えられますし、教育委員会としてもそうなるよう今後ますます取り組んでいかなければならない課題の一つであると考えています。

◆武蔵野ガイダンスプログラム  
新入生が充実した中学校生活を送ることができるよう、学級・学年における好ましい集団づくりや円滑な人間関係づくりのための実践例を掲載した資料で、市立中学校の全教員に配布しています

## 性別や同性愛などで悩んでいる方 まずはお電話ください

性別違和や性的指向の悩みを抱えている人を利用してほしいのが、厚生労働省の補助金事業である24時間無料電話相談「よりそいホットライン」です。2012年度はセクシュアル・マイノリティに関して約38万件のアクセスがありましたが、電話回線が少なく、相談員も100人程度に限られるため、実際にお話しできたのは約9%約3万4000件でした。2013年度にはアクセス件数が約63万件に増加し、ニーズの拡大を感じています。

「友達にも親にも学校にも言えない。相談できる場所がここしかない」と相談者は電話をかけてきてくれます。相談者の年齢は10〜40代がほぼ同率です。50代以上の方が少ないのは、抑圧的な社会通念があるからではないかとみえています。利用者の性別は、男性(M)が41%、女性(F)が34%、男か女かの枠に収まりきれない方(X)が25%にのぼります。

相談内容は「自分の性についての悩み」が最多で、「人間関係の悩み」が続きます。自分の性的指向に悩んでいる方、周囲の無理解から情緒不安定になる方、不登校やいじめ、セクハラを受けている方、自殺を考えている方、様々な声が寄せられています。どんな悩みにも寄り添って、一緒に解決する方法を探しますし、必要に応じて、役所・病院への同行支援なども無料で行っています。匿名で秘密は守られますので、ひとりで悩まずにお電話ください。

「取材文 友野その子」

原ミナ汰さん



1956年生まれ。男女の境界線のないXジェンダー。「原美奈子」の名で日・英・西の翻訳・通訳のかたわら、20代後半からレスビアン当事者のサポートグループや、性被害者の自助グループを運営。

### 共生ネットとは…

セクシュアル・マイノリティへの根深い偏見の解消を目指して、国政レベルに働きかけようと、2008年に発足、12年にNPO法人化。当事者と家族や友人などの支援者からなる全国ネットワーク。「よりそいホットライン」の協力団体として、音声ガイドダンス「4」で選べる「セクシュアル・マイノリティ専門ライン」を担当している。

<http://www.kyouseinet.org>

お電話  
ください

よりそいホットライン  
0120-279-338

\*携帯電話、公衆電話からもつながります

通話による聞き取りが難しい場合、FAXでの相談も可  
03-3868-3811



「まなごサポーターの200字コラム」  
多様な性を考える

誰も知っておくべき 赤崎江里・榎堤



私にはゲイの知人が複数いたので、彼らを理解していると思っていました。彼らはみんな素敵に生きていました。しかし今回の特集に向けて関連本を読んでみて、当事者の幼少時代や親の壮絶な思いを知り、衝撃を受けました。知り合いならば受け入れられるけれど、知らない同性愛の人の写真を見たら身構えている自分があることに気づきました。誰も無知ではないけれど、社会が理解しなければならぬことだと知りました。

人として 菊池由起・緑町



3年前、ゲイと公言している同僚と働いていました。お客様に朗らかに接し、自分の意見をはっきりと言う仕事ぶりを尊敬していました。セクシュアル・マイノリティを理解する前に、人対人の関係でいること。人間としてどういう姿勢で生きているか?それが土台であると彼から学びました。性に限らず、多様な背景を持つ人を理解し共に生きよつとすることは、その姿を見た子どもが多様な性を受け入れられることにつながると思っています。



本質まで理解できているか 名久井梨香・吉持寺南町  
「性同一性障害」「同性愛者」などの言葉が広まり、一見セクシュアル・マイノリティへの理解が深まったかのようにはみえます。しかし、芸能人や、お水の人。など「別の世界の人」または漫画や映画などの「架空の人」として認知されているようにも感じます。セクシュアル・マイノリティは決して、別の世界の人のお話ではなく、学校や会社であなたの隣にいる方かもしれません。そこまで理解しあえる社会になるといいです。

### もしDVにあっているなら… 相談窓口をご案内します (相談は無料です)

●警視庁総合相談センター 03-3501-0110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15)

【配偶者暴力相談支援センター】

- 東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455 (年末年始を除く毎日 9:00～21:00)
- 東京ウィメンズプラザ (男性のための悩み相談) 03-3400-5313 (祝日・年末年始を除く月・水曜 17:00～20:00)
- 東京都女性相談センター 多摩支所 042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～16:00)
- 東京都女性相談センター 03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～20:00)



夜間・緊急の場合

- 警察(事件発生時) 110番
- 東京都女性相談センター 03-5261-3911 (夜間・休日のみ)
- 武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。予約制 第2木・第4火(相談時間50分) 予約専用 0422-60-1921
- 武蔵野市役所 母子(ひとり親)・女性相談 0422-60-1850 (祝日・年末年始を除く月～金曜 9:00～17:00)

「まなこ」は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

## INFORMATION

### 市民活動推進課 男女共同参画担当から

#### ●平成26年度武蔵野市男女共同参画推進委員会が設置されました

武蔵野市第二次男女共同参画計画の平成25年度及び5か年間の評価、武蔵野市第三次男女共同参画計画の事業について検討していただくため、平成26年10月に設置しました。推進委員は有識者、経験者等と2名の公募委員の6名(女性4名、男性2名)です。

委員名簿(敬称略、五十音順、◎は委員長、○は副委員長)

氏名(所属等)	
小川拓哉(武蔵野市立第五中学校副校長)	原 利子(むさしの男女共同参画市民協議会代表)
◎榎丈英子(亜細亜大学経済学部教授)	二子石 薫(公募委員)
○野田順子(野の花メンタルクリニック医師)	松井滋樹(公募委員)

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当 TEL: 0422-60-1869 FAX: 0422-51-2000 URL: <http://www.city.musashino.lg.jp>

#### ●平成25年度武蔵野市第二次男女共同参画計画 推進状況調査報告書ができました

平成26年8月18日開催の男女共同参画庁内推進会議(副市長を議長とし関係6部の7部長で構成)において、第二次男女共同参画計画の平成25年度の進捗状況及び5か年間の評価や各種委員会の女性割合などをまとめたものです。

報告書は西棟7階市民活動推進課、図書館、むさしのヒューマン・ネットワークセンターで閲覧できます。また、市ホームページでも公開しています。

#### ●女性に対する暴力をなくす運動

「女性に対する暴力をなくす運動」に関連した事業として、11月13日から11月17日まで、「武蔵野プレイス」ギャラリーにおいて、むさしの男女共同参画市民協議会と共催でDV防止パネル展を実施しました。連日、多くの来場者が展示に見入っていました。

パネル展を通して、日常に潜むDVへの理解を深め、被害防止など、自分たち一人一人にできることを考えるきっかけとなりました。パネル展は、12月12日から12月17日までの間、市役所1階ロビーでも行います。

### 活動補助金事業 を紹介します

#### ワークショップ「子どもを育てながらそれぞれが自分らしく生きる～言葉かけのコツ～」を開催しました

日時：平成26年8月26日(火)10時～12時

会場：武蔵野市市民会館 集会室

講師：中川享子氏(親業訓練協会認定シニアインストラクター)

参加者：40人

主催：まめつちよ

相手の気持を受け止め理解する聞き方、自分の気持を率直に伝える話し方、両者の対立を解決する方法をワークショップで体験しました。「親子はもちろん全ての人間関係において、いかに話しかけるかが問題であり、相手の気持ちを尊重することの大切さを実感した」「日常の会話にコツを活かしていきたい」等の感想が寄せられました。 [文「まめつちよ」岸洋真理]

#### ご存知ですか? 「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、男女共同参画推進の拠点として、性別等にかかわらず誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指し活動しています。男女共同参画に関する情報の提供、各種講座の開催などを行っています。また、フリースペースでは市民の方々の自主学習会や交流などが行われています。どなたでもご利用できますのでお気軽にお越しください。

#### <センター利用案内>

- ◆住所：武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2階
- ◆Tel/Fax：0422-37-3410
- ◆E-Mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp
- ◆開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
- ◆休館日：日曜日・祝日・年末年始

#### <これからの講座予定>

- 2015年2月 7日(土)14:00～16:00「思春期の子どもの持つ親塾講座(仮)」
- 2月12日(木)14:00～16:00「条例づくり講座(仮)」
- 2月21日(土)14:00～16:00「コミュニケーション・スキルアップ講座(仮)」
- 2月28日(土)15:00～17:00「女性の健康講座(仮)」

▶ 講座の詳細・お申し込みは市報やセンターのホームページをご覧ください!  
<http://www.mhnc.jp/>

**BOOKS** ★ 貸し出ししています

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から



**「境界を生きる」女性と生のはざま**

毎日新聞「境界を生きる」取材班編(毎日新聞社)

実際の取材をもとに、毎日新聞くらしナビ面に2009年9月から連載された「境界を生きる」を加筆・修正し、再構成したもので、性分化疾患や性同一性障害(性別違和)とは何かを詳しく説明し、さまざまな事例をとりあげている。

セクシュアル・マイノリティの中で生きる人々の考え方や感じ方はそれぞれ違いますが、曖昧な自分の性を受け入れ、生き辛さを乗り越えてほしい。そして、その多様性を受け止められる包容力のある社会に近づいてほしい」と示唆している。 [文 杉田真奈美]

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、男女共同参画社会を実現するための推進拠点施設です  
武蔵野市境2-10-27 武蔵境市政センター2階 tel・fax 0422-37-3410  
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL <http://www.mhnc.jp/>

#### \* STAFF \*

- サポーター 赤崎江里 菊池由起 鬼頭麻佐  
名久井梨香 平川みのり
- 取材・編集 詩水淳子 杉田真奈美 関口直子 友野その子  
丸山麻帆 矢後麻美 市男女共同参画担当職員
- 編集協力 栗原 毅
- 表紙・イラスト ふじわりわ
- デザイン 上田ジュンコ
- 印刷 プリンティングイン株式会社

\*\*\*\*\*  
「まなこ」は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、市内の医療機関、美美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。

◎ 繰り返し返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は、27年3月初旬発行予定です。

#### Editors' Notes 編集 \* 後記

とても深く、大切なテーマだと改めて実感した。「自分に何ができるだろう?」と考える機会になった。ご縁に感謝します。 (詩水淳子)

セクシュアル・マイノリティの中で生きていく方々の生の声を聞き、衝撃を受けました。すごくデリケートな問題だけに、深刻に考えさせられました。 (杉田真奈美)

皆、違っている。ありのままに生きる。言葉にするのが簡単ですが実現するのは難しい。でもそれを目指して生きていきたいと思います。 (関口直子)

「女の子同士は結婚できなくて、男の子と結婚するんだよね」と幼稚園で仕入れた知識を披露する娘。同性婚が合法的な国の話をしたが、理解できなかったかな。 (友野その子)

「理解できなくてもできることはある」という言葉が心に響いた。「わからない」が終わりではなく、何かを始めるきっかけになったらと願う。(丸山麻帆)

枠組みにとられない自由な心と頭。田中先生にお話を伺い、その大切さを再認識しました。(矢後麻美)